

12. 採卵鶏農場で発生した鶏伝染性喉頭気管炎

大分家畜保健衛生所・¹⁾宇佐家畜保健衛生所
○平川素子・(病鑑) 吉田史子¹⁾・病鑑 平松香菜恵

【はじめに】

鶏伝染性喉頭気管炎 (ILT) は、ヘルペスウイルス科に属する鶏伝染性喉頭気管炎ウイルス (ILTV) の感染によって起こる鳥類の急性呼吸器病で、届出伝染病に指定されている。

今回、管内の1採卵鶏農場にて県内20年ぶりにILTの発生が確認されたので報告する。

【発生概要】

当該農場は4棟のウィンドウレス鶏舎で、計約20万羽の採卵鶏を飼養。

2019年12月18日に、1鶏舎にて死亡羽数が増加しているとの連絡を受け、立ち入り検査を実施。なお、立ち入り時にA型インフルエンザ簡易検査を実施し、陰性を確認。

【材料および方法】

病性鑑定は562日齢の死亡鶏3羽 (No. 1~3) を用い、定法に従い細菌学的検査、ウイルス学的検査、病理組織学的検査等を実施。

【検査成績】

剖検：No. 1及び2に卵墜、No. 2の腎臓に軽度腫大、No. 3の盲腸に軽度出血がみられた。

細菌学的検査：主要臓器及び脳からの菌分離は陰性 (No. 1~3)。

ウイルス学的検査：気管よりILTV遺伝子を検出、ウイルス分離陽性 (No. 1~3)。検出されたILTV遺伝子における簡易型別法の切断パターンは市販のワクチン株および2008年に宮崎県で分離された株と一致。また、ILT発生鶏舎においてILTVの免疫状態を確認するため、ペア血清を用いILTV中和抗体価を測定。pre血清では全て2倍未満、post血清では7/10羽で2倍以上の中和抗体価を確認。

病理組織学的検査：気管の粘膜上皮細胞に合胞体及び核内封入体の形成を伴う、化膿性リンパ球性気管炎が認められた (No. 1~3)。

以上の結果から、ILTと診断。

【まとめおよび考察】

管内1採卵鶏農場において死亡羽数の増加により病性鑑定を実施し、ILTと診断。

今後の対策として、空舎時の消毒を徹底すること、作業時の動線に注意することなど、一般的な衛生管理を徹底するよう指導。

しかしながら、2020年2月に別鶏舎にて同様にILTが発生。検出されたILTV遺伝子における簡易型別法の切断パターンは、2019年12月に当該農場で分離されたILTV株と一致。

このように、ILTは一度養鶏場に侵入するとウイルスが常在化しやすく、発生終息後に再発することがあるため注意が必要である。

その後は収束し、現在まで症状を示すものは確認されていない。